宮崎県のカメムシ雑感

小松　孝寛（宮崎昆虫同好会）

宮崎県の特徴

宮崎県は西南日本弧と琉球弧が交差する場所である．県北の山地（椎葉村，五ヶ瀬町，高千穂町，日之影町）は西南日本弧を形成する九州山地に属し，中央構造線の南東部に当たり，非火山性の山地に阿蘇山の火山性山地が入り込む複雑な山容を見せている．宮崎県の最高峰は火山性の祖母山（1758m，高千穂町）であり，九州山地の非火山性の最高峰は国見岳（1738m，椎葉村）である（横山 1989）．一部の火山性山地を除けば付加帯堆積岩で覆われており，その中には石灰岩地帯も点々と見られる．県南の山地は南西諸島から続く琉球弧の最北限にあたり，南北に走る山地がある．堆積岩からなり，九州山地よりも古い時代に隆起した．この県北と県南の2つの山地に堆積岩からなる宮崎平野と，新しい火山である霧島火山系とそれに伴って形成された盆地からなるというのが宮崎県のおもな地形である（図1）．

県北の高標高地帯にはミズナラ～ブナ林があり，北方系のカメムシも生息している．県南の山地や日向灘を望む海岸地帯は南方系の種類が多く，最近は温暖化により過去には見られなかったカメムシも見つかっている．霧島山系の高標高地帯にはブナやミズナラが生えており，県北山地と似た種類が多いが，高千穂の峰（1574m）などの山頂付近には，吹上流による南方系のカメムシも確認されている．これらの地域の接点にあたる綾町から小林市須木の地域は面白い．綾町は有機栽培による農業が盛んで，山間部には手付かずの照葉樹林も残っている．また，掃部岳（1223m）と大森岳（1109m）は7.5kmほどしか離れていないが，掃部岳にはブナがあり，大森岳にはブナがない．ブナ林の境目になっている．このようなことからこの地域には多様な昆虫が生息している．2016年時点で宮崎県内で確認した陸生カメムシは452種であった（小松 2016）．その後24種が確認されたので，現在は476種が記録されている．これらの中から，地域別に興味あるものをいくつか紹介する．

県北山地

県北には石灰岩地帯がある．ツゲが生えている場所もあり，2015年に高千穂町でニシキキンカメムシが発見された（小松・西 2016）．続いて椎葉村でも確認したので，ツゲさえ生えていればニシキキンカメムシが生息している可能性が大きい．県北山地にはミツバウツギも生えている．8月中旬にサルノパンツと呼ばれる実を付けたミツバウツギを探すと，イシハラカメムシが見つかった（小松 2017）．その近くでは，アカスジキンカメムシの若齢集団がキブシにおり，シータテハがハルニレに産卵していた．試みにイシハラカメムシの飼育をミツバウツギ科のゴンズイで行ったことがある．4齢幼虫までは育ったが，残念ながら終齢になる前に死亡した（小松 2017）．高千穂町五ヶ所高原でハリサシガメ（環境省NT）を見たことがある．盆過ぎにゴマシジミを撮影しに行ったときにキマダラモドキが生息しているクヌギの疎林近くで道の上を歩いていた．

祖母・傾・大崩山系は昨年エコパークに指定されたが，1970年までは大崩山の原生林伐採が続いていた．原生林伐採跡の調査報告（俵 1977）に記載され，それ以降記録のない種としてスズヤヒラタカメムシ，コヒラタカメムシ，フトヒゲヒラタ

図2　イシハラカメムシ♀
Chalazanotum ishiharai
（ミツバウツギの実の上）

図3　アカスジキンカメムシ♂
Poecilocoris lewisi
（キブシの葉の上）

図4　交尾するハリサシガメ
Acanthaspis cincticrus

図5　オオツヤナガカメムシ♀
Lamproplax majuscule

図6　ミナミオオヘリカメムシ♂
Molipteryx asahinai

図7　ヒイロオオモンキカスミカメ♂
Deraeocoris erythromelas

カメムシ，トゲヒゲボソヒラタカメムシ，ヤセオオヒラタカメムシがいる．ご多分に漏れず鹿害が激しくこれらの種が今も生息しているかどうか気になるところである．

椎葉村と日之影町の林道で，夕方にオオツヤナガカメムシが歩いているのを見たことがある（小松 2017）．クロツヤナガカメムシは県内に広く分布しており，落ち葉の間から見つかる．チビツヤナガカメムシも県内に広く分布しているが，比較的山深い場所に生息している．この３種は大きさと前翅腿節の棘の数によって見分ける．オオツヤナガカメムシは前翅腿節の棘が３本，クロツヤナガカメムシが２本でチビツヤナガカメムシが１本である．しかし，宮崎県にはクロツヤナガカメムシと大きさが同じで棘が１本のものと，チビツヤナガカメムシと大きさが同じで棘が２本の個体も見つかっており，興味深い．

県北山地には本州などと同じくオオヘリカメムシ，ヒメクモヘリカメムシとハラビロヘリカメムシがいる．しかし，宮崎県の大部分ではこの３種の代わりに，ミナミオオヘリカメムシ，ニセヒメクモヘリカメムシとホシハラビロヘリカメムシが生息しており，様相を異にしている．カスミカメでは，大型種が県北に多い．大きくて綺麗なヒイロオオモンキカスミカメは高標高地帯の樹上にいるので，６～７月に広葉樹をスイープするとアシアカクロカスミカメの中に混ざって見つかる．ノリウツギには色々な体色をしたアカスジオオカスミカメが来ている．夜のライトにはオオマダラカスミカメに混ざってベニオオマダラカスミカメやウスモンオオマダラカスミカメがやって来る．綺麗な緑色に黒筋の入ったシマアオカスミカメは５月頃に県北の里山に咲くオドリコソウに来ていることが多く，ミツボシツチカメムシと仲良く吸汁している姿が見られる．他にも疎林ではカシワトビカスミカメ，カシワカスミカメ，クヌギカスミカメなどが，草原のハギ類からはヨツモンカスミカメ，キエリフタモンカスミカメが，イネ科植物からはアカミャクカスミカメなどの北方系の種が見つかる．

霧島山系～都城盆地

県北山地で見られる種類が多いが，えびの高原でツヤキベリナガカスミカメ，カワサワミドリカ

図8　シマアオカスミカメ♀
Mermitelocerus annulipes
（オドリコソウで吸汁）

図9　ムツボシカスミカメ♂
Orientocapsus aquilus
（装飾花のないコガクウツギで吸汁）

図10　オオキンカメムシ
Eucorysses grandis
（アブラギリの実で吸汁）

図11　ヒゲナガトビイロサシガメ♂
Oncocephalus germari

図12　ホソナガヒラタカメムシ♂（左上）
Neuroctenus argyraeus
アラゲオオヒラタカメムシ♂♀（右）
Mezira subsetosa

図13　アオクチブトカメムシ♀
Dinorhynchus dybowskyi

スミカメ，オオクロカスミカメやムツボシカスミカメが得られている．高千穂の峰には吹き上げられてくる昆虫が多く，南方系のムナグロアカナガカメムシやオオキンカメムシも確認されている．盆地ではゴミアシナガサシガメ（環境省 VU）が1985年に記録されている（小松・永井 2013）．永井庖氏が新居へ移る際に古い家屋の床下から見つけた．また，奥田恭介氏によるトビイロサシガメ亜科の精力的な調査により，トビイロサシガメやクロトビイロサシガメの他にもアシボソトビイロサシガメ（環境省 NT），ヒゲナガトビイロサシガメやシロスジトビイロサシガメが確認されている（奥田 2012, 2016）．野尻町ではモミジの枯枝にホソナガヒラタカメムシとアラゲオオヒラタカメムシが同じ場所で集団越冬しているのを，東霧島神社ではマルガタオオヒラタカメムシの越冬個体が木製の壁に張り付いているのを見たことがある．

須木・綾

須木中原と綾町の境でヒラタツチカメムシの記録がある（山田 2012）．日本本土からの報告は宮崎県産の2例のみで，もう1例は県南山地から記録されている（高倉 1985）．ヒラタツチカメムシは南方系の種類で，奄美大島で発見されたときは，樹皮下棲の昆虫は海流によって分布を広げやすいのではないかとの指摘があった．しかし，宮崎県での発見地はいずれも海岸から遠く離れた山間部である．

この地域の中心となる大森岳には須木中原と綾町の2ヶ所から大森岳林道が通っている．須木側から入り，樹木をスイープするとアオクチブトカメムシ，ハラビロマキバサシガメやマツケブカカスミカメが，朽ち木からはツヤキノコカスミカメやホソミツヤキノコカスミカメが得られた．夜のライトにはシオジツヤマルカスミカメやヘリグロミドリカスミカメも飛んで来た．綾町側の林道ではスイープでナカボシカメムシ，トビイロオオマダラカスミカメ，ツヤカスミカメダマシが，目視でクロサシガメ，チャイロサシガメが，伐採木や枯れ木からミナミヒメヒラタカメムシ，フタガタヒラタカメムシが得られた．夜ライトを行うとツノアオカメムシ，サジクヌギカメムシなどが来るが，最も多いのはハサミツノカメムシというときもあった．里山の川沿いにはハルニレが多く，そ

図14　トホシカメムシ♂
Lelia decempunctata
（ハルニレの葉の上で休む）

図15　オオチャイロナガカメムシ♂
Neolethaeus assamensis

図16　シロヘリツチカメムシ♀
Canthophorus niveimarginatus
（カナビキソウで吸汁：左上は幼虫）

図17　アシマダラアカサシガメ♀
Haematoloecha rubescens

図18　アカギカメムシ♂♀
Cantao ocellatus
（アカメガシワの葉上で交尾）

図19　アシナガナガカメムシ♂
Poeantius lineatus
（コウボウムギの上で休む）

れに依存するカメムシも良く見かける．

須木鳥田町では，5月にハルニレの窪みでヨツモンカメムシ5カップルが集団交尾しているのを，綾町では，4月にシータテハが産卵しているハルニレの若葉の近くをトホシカメムシが歩いているのを，6月にはハルニレ近くの伐採木の上をマダラツチカメムシが休んでいるのを見たことがある．オオチャイロナガカメムシとルイスチャイロナガカメムシはチャイロナガカメムシよりも個体数は少ないが，5～6月にライトで照らされた橋に行くと，ほとんどがオオチャイロナガカメムシという日もあった．草地にはチガヤやススキの根に半寄生するカナビキソウが生えており，それを寄主とするシロヘリツチカメムシ（環境省NT）も生息している．注意深く探すと，黒に藍色がかった成虫や赤色が目立つ幼虫が見つかる．また綾町は有機農業が盛んなので，イネカネムシ，アズキヘリカメムシやフタテンカメムシなども多い．

宮崎平野～海浜地帯

珍しいものではキスジサシガメが高岡町から記録されている．アシマダラアカサシガメも記録は少ないが，下北方町の産地には個体数が比較的多い．大きなクスノキの根元の落ち葉の中からビロウドサシガメと一緒に見つかり，周りにはヤスデが多数這いまわっている．越冬したアシマダラアカサシガメ♀を産卵させたことがあるが，卵期が25日と長めで，孵化してすぐの一齢幼虫のときから小さいヤスデを襲っていた．12月にモモブトトビイロサシガメ成虫2♂を宮崎市内海で確認したことがある．それまでは10～12月にトビイロサシガメの幼虫を，12～1月にモモブトトビイロサシガメの幼虫を確認していたので，トビイロサシガメ属のサシガメは幼虫で冬を越すと思っていた．この属の越冬形態が何なのか興味深い．

海岸に近い林では，アカメガシワに多数のアカギカメムシが発生することがある．2009年には宮崎市内海で1本のアカメガシワに3500頭以上のアカギカメムシが群がっていた．河口近くの浜辺に行くと，イカリモンハンミョウなど海浜性ハンミョウがいる場所に，アシナガナガカメムシ（環境省NT）やハマベツチカメムシも見つかる．青いハマゴウの花が咲く頃にはブチヒゲカメムシが姿を見せる．宮崎市内にもまだ自然林が残ってお

図20　コブハナダカカメムシ　*Neocazira confragosa*

り，ヒメケブカカスミカメ，ヒゲナガカスミカメ，ケブカキベリナガカスミカメ，ソデフリカスミカメなどが見つかっている．

県南山地

2010年に宮崎市青島から折生迫を経て内海に抜ける大谷林道でコブハナダカカメムシを見つけた．これが，筆者がカメムシに興味を持つきっかけとなった．同じ林道でシモフリヒラタカメムシ属の1種をアカメガシワの枯枝部から採集している．シモフリヒラタカメムシは延岡市や綾町で記録されているが，この種は台湾などで記録されている *C. taiwanensis* と思われる．他にもこの山系で，クロナガヒラタカメムシに似たナガヒラタカメムシ属未記載種が少なからず記録されており，海岸部ではヒラタカメムシ科の未記載種も採集されている．海辺にボタンボウフウが咲くと，アカスジカメムシやキアシチビトビカスミカメが群がってくる．

北上種・侵入種

ヨコヅナサシガメは1930年頃に日本に侵入し，最近の温暖化により数が増えている．神社や公園の大きな樹木の幹を探すと見つかることが多く，大淀川河川敷の公園ではキマダラカメムシを襲っているのを見たことがある．キマダラカメムシは1783年に長崎の出島で記録され，永らくは長崎周辺だけが産地であったが，1980年頃から長崎以外でも確認されるようになり，2009年に延岡市に侵入し，現在は宮崎市内でも普通に見られるようになった．ヒゲナガヘリカメムシは南方系の種で，竹に寄生する．1982年に沖縄首里で初めて採集され，2012年には鹿児島県枕崎市で，2013年には日南市を経て佐土原町まで北上した．同じように北上し鹿児島県では多くの個体が確認されているアシビロヘリカメムシは，2016年10月に日向市美々津で1♂が確認されただけである（木野田・小林2016）．他にも，アカホシカメムシが2012年～2013年に宮崎市内の公園にあるアオギリで発生したことがある．また，キシモフリクチブトカメムシの幼虫が2016年に宮崎市にある大淀川学習館の食草園でイシガケチョウの幼虫を摂食しているところを採集した（小松・日髙2018）．どちらも自力で長距離移動することは考えにくいので，奄美や沖縄からの苗木などに卵か幼虫が付いてきたものと思われる．侵入グンバイ3種のうちプラタナスグンバイは未確認であるが，アワダチソウグンバイは既に県内に広く分布している．ヘクソカズラグンバイは2016年には日向市以北の国道10号線沿いには幅広く生息しており，宮崎市内でも何か所かで確認された（小松2016）．

引用文献

木野田 毅・小林賢司，2016. アシビロヘリカメムシの記録．タテハモドキ，(52)：58.

小松孝寛・永井　庵，2013. カメムシの記録（2）．タテハモドキ，(49)：39-57.

小松孝寛，2016. 宮崎県の陸，生カメムシ．142pp. 黒潮文庫，宮崎．

小松孝寛，2016. ヘクソカズラグンバイ，宮崎市に到達．タテハモドキ，(52)：46-49.

小松孝寛，2017. 日之影町でオオツヤナガカメムシを確認．タテハモドキ，(53)：20-21.

小松孝寛，2017. 高千穂町でイシハラカメムシを確認．タテハモドキ，(53)：20-21.

小松孝寛・日髙謙次，2018. 九州初記録のキシモフリクチブトカメムシ．*Rostria,* (62)：77-78.

奥田恭介，2012. 日本におけるアシボソトビイトサシガメの約40年ぶりの再発見および九州本土からの記録．*Rostria,* (54)：37-38.

奥田恭介，2016. 宮崎県初記録のトビイロサシガメ属2種．*Rostria,* (59)：67-68.

高倉康男，1985. ヒラタッチカメムシ九州本土に分布．*Rostria,* (37)：518

俵　慧，1977. 宮崎県北部のカメムシ［分布資料II］．タテハモドキ，(12)：1-37.

山田真太郎，2012. ヒラタツチカメムシ（カメムシ目ツチカメムシ科）の報告．宮崎県総合博物館研究紀要，(32)：21-22.

横山淳一，1989. 宮崎の地理．みやざきの自然創刊号：2-12.